

## 「印旛沼クリーン大作戦」 ～印旛沼に本来の姿を～



作業前の打ち合わせ



作業前の団結



舟で落ちた茎の回収・引き抜いた群生を陸へ引き上げ

神崎川では、およそ10kmにわたって「ナガエツルノゲイトウ」の群生があり、大雨が降ると流されて、排水ポンプの運転に支障きたすなど影響が出るため、参加した学生（男女問わず）たちは、除去するため川に入り、川岸に生えている植物を根元から引き抜き、そのあと、落ちた根や茎が繁殖しないよう川岸に敷いたシートの上に回収しました。学生たちは汗だくになりながら作業をしていました。

作業は、3日間の予定で実施され、初日、2日目は、参加された方の頑張もあり、多くのナガエツルノゲイトウを駆除することができました。残念なことに最終日は台風の影響で雨となり駆除作業ができませんでしたが、この夏の蒸し暑さのなか、初日、2日目と熱中症などにならないよう十分注意しながら作業を行い、事故等もなく無事に終わりました。

平成28年8月18日～20日、千葉用水総合管理所では、印旛沼に流れ込む印西市内の神崎川（かんざきがわ）左岸側で行われた、印旛沼クリーン大作戦として特定外来種植物「ナガエツルノゲイトウ」の駆除に参加しました。

この印旛沼クリーン大作戦は、NPO法人国際ボランティア学生協会(IVUSA)と印旛沼流域水循環健全化会議が主催したものです。

駆除作戦の参加者は、大学生ボランティアや千葉県などおよそ100人/日が駆除作業に取り組みました。千葉用水総合管理所からも3日間で延べ23人の職員が参加しました。（機構からボート1艘出しています）



河岸での除去作業の様子



河川側作業者と陸上作業者との連携作業の様子



落ちた根や茎も残さずシート上に回収